

2007 年度報告書に対する評価委員会による評価結果

I 総評

2006年度評価委員会による評価結果を受け、2007年度報告書においては、活動実績を数値や図表で示し、その数値を目的・目標との比較に活用した客観的で工夫された点検・評価となっている。また、認証評価結果への対応を明確にするために、助言事項、指摘事項に対応した記述部分について下線を付し、重点的に改善できるように工夫したことは評価できる。

しかし、大学間競争が厳しい時代にあるなか、今後の評価基準については、大学基準協会の定める基準だけに留まらず、他大学との比較情報を取り入れるなどして、さらなる質的向上を図るため、本学独自の目的・目標を設定することも必要である。

自己点検・評価の結果、明らかとなった諸課題は、本学の発展にとって重要な課題である。特に、教育理念・目標の検証、グランドデザインの策定、国際化の推進、教育・研究の質向上ための取り組みの推進、及び学生生徒等納付金収入に依存しない財源の確保については、早急に具体的措置を講ずることを提言する。

II 明治大学自己点検・評価規程第17条に基づく大学に対する提言

1 教育理念・目標の検証

「権利自由」「独立自治」という建学の精神を具体化させている諸活動を抽出し、教育・研究、社会連携活動の指針等を定め、生き生きとした学生、教員の姿に焦点をあてた理念・目的の検証方法を検討するべきである。

2 グランドデザインの策定

新キャンパスとなる予定の中野キャンパス(仮称)の構想が検討されている一方で、既存キャンパスの老朽化した施設の更新が緊急課題となっている。また、各地区では共同研究のための施設やスチューデントセンターなど新たな施設整備が必要になっ

ており、駿河台キャンパスや和泉キャンパスでは狭隘さの解消が課題となっている。各地区におけるキャンパスの利用計画を中心に、早急に大学全体としてのグランドデザインを策定すべきである。

- (1) 時代のニーズに応じた学部・研究科等の新設及び再編，並びに世界的研究拠点の形成を含めた研究計画の策定
- (2) 財政見直しを含め，新キャンパスの整備，老朽施設の建て替え（特に研究施設の充実）などの長中期にわたる施設整備計画の策定
- (3) 収容定員の適正規模に関する計画の策定

3 教育・研究の国際化の推進

2009年度に公募が予定されている国際化拠点整備事業（グローバル30）については、本学の国際化を進展させるべく申請準備を進めているところであるが、特に次の事項について具体的に検討すべきである。

- (1) 国際的な教育システムの構築や国際共同研究の実施等，大学院の教育・研究の高度化をはかること
- (2) 国際化拠点整備事業への申請に向け，学部・研究科での留学生受け入れ数の増加が計画されているなか，一般・特別・推薦等の入試形態別の定員について，適正な定員を定めること
- (3) 留学生受け入れを促進するために，修学面のみならず，日常生活のケアを行なう体制整備の支援計画を策定すること
- (4) 派遣留学生を増やす方策として，学生の語学力向上のためのプログラム開発，留学制度自体の見直し，帰国学生への就職支援，学生の留学意欲の一層の喚起（留学フェアの実施，種々の情報発信など）等を推進すること

4 教育・研究の質向上のための取り組みの促進

自己点検・評価や改善アクションプランの実施によって，教育・研究条件の整備が着実に行われているが，FDや授業評価の活用，シラバスの充実等，教育面で検討すべき課題がある。学習意欲向上に資する気概を持った教育を実践するため，厳格な自己点検・評価を実施し，改善を促進する必要がある。

また，豊かでユニークな発想を大きな発見に導くため，若手研究者への支援策を検討し，研究の質向上を図るべきである。

5 学生生徒等納付金に依存しない財源の確保

財政面においては、帰属収入における学生生徒等納付金や経常費補助金の比率を下げる工夫が必要である。新しい教育の展開や研究資金の確保については、教育改革支援プログラム（GP）、グローバルCOEプログラム、科学研究費補助金等の文部科学省等競争的補助金への申請による採択を増やし、教育・研究の質向上のために外部資金を活用することが必要である。また、新たな財源として、大学にとって望ましい収益事業の発展をはかることを検討すべきである。

以 上